

## 権力の多次元性:テオティワカンにおける都市建設から考える

権力関係は多次元的であり、異なる物質文化の生産・流通・消費は必ずしも首尾一貫した一つの次元あるいは支配・被支配関係を形成しているわけではない。本発表では、マイケル・マンが提唱した国家の「インフラストラクチャー的権力」という概念に注目し、異なる次元の権力関係をどのように考古学的に検証できるのか、テオティワカンの都市建設における労働量と建築材(漆喰と切石)の分析を通して考察する。インフラストラクチャー的権力は強制的に行使される「専制的権力」と対比され、国家がそのインフラストラクチャーを通して深く市民社会に浸透することで社会的諸活動を調整する力のことである。インフラストラクチャー的権力の行使は国家と異なる社会集団との交渉の上に成り立つものであり、一元的な支配・被支配関係という概念では捉えきることのできない社会関係を理解するのに貢献する。さらに、権力の不平等と社会の同一性という相矛盾する現象がいかんして同時に成立しうるのか考察する材料を与えてくれる。

### 【コメンテーター】

青山和夫 (茨城大学人文学部教授)

関雄二 (国立民族学博物館教授)

主催 古代アメリカ学会

2014年12月23日(火祝)

発表  
14:00~15:30

ディスカッション  
17:00ころまで

東京大学総合研究博物館7階  
ミューズホール

※休館日のため通用口より  
ご入館ください。

古代アメリカ学会 第4回東日本部会研究懇談会

# 権力のマテリアリティ

非会員の方も参加できます。参加の事前登録は必要ありません。会場定員は約60名です。  
詳細は古代アメリカ学会HPにて <http://jssaa.rwx.jp/> お問い合わせ: 古代アメリカ学会事務局 [jssaa@sa.rwx.jp](mailto:jssaa@sa.rwx.jp)